

技術情報

関係機関・団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

イチゴ炭疽病の防除対策について

イチゴの炭疽病については、育苗期の調査において潜在感染株率が高いほ場があるため、平成18年8月3日に速報第4号を発表し、健全な苗を確保し、防除対策の徹底を呼びかけたところです。

本ほの管理および次作に向けて防除対策の徹底をお願いします。

イチゴ

1 病虫害名 炭疽病

2 発生状況

育苗期の後半から炭疽病の発生が多く、定植後も発生が見られ、平年・前年より発生ほ場率が高くなっている。

(1) 10月2半旬の調査の結果

発病株率 0.8% (平年: 0.8%、前年: 0.2%)

発生ほ場率 12.0% (平年: 8.3%、前年: 8.0%)

(2) 今後3ヶ月間の平均気温は高いと予想されており、昨年と同様に発生の増加が懸念される。

3 防除上注意すべき事項

本ほでの防除対策

- (1) ビニル被覆後のハウス内温度の上昇で潜在感染株が発病しやすくなる。また、着果負担などの株へのストレスは発生を助長する。発病株は、残渣を残さずに周囲の土ごと掘り取り、焼却するかビニルで完全に包み込み、周辺株への胞子の飛散を防止する。

- (2) ほ場の排水を図り、多湿にならないようにする。
- (3) 窒素質肥料の多用による急激な肥効をさける。

健全な親株を確保

- (4) 炭疽病が発生した苗と一緒に育苗した親株用の苗は、次年度に持ち越さず親株を更新する。
- (5) 親株が不足した場合は、定植株から秋期に採苗し親株として育成する。
- (6) 採苗は、感染の機会が減るビニル被覆後に発生した秋ランナーを利用する。また、定植株への負担がないように1株から1苗とする。

親株の防除対策

- (7) 風雨による感染拡大をさけるため、雨よけハウスで育苗する。
- (8) 頭上からの強いかん水は病原菌の飛散・感染を招くので避け、点滴かん水チューブ等を用いて株元に行く。底面吸水によるかん水は、二次感染防止に有効である。
- (8) プランターなどを利用し、地面から離れたベンチの上で栽培する。
- (9) 苗間隔を十分に確保し、施設内の風通しを良くする。
- (10) 地床栽培する場合は、冠水がなく排水のよいほ場を選定し、床面全体をマルチ被覆する。
- (11) 多肥栽培を避け、定期的に薬剤防除を行う。

